書名札謂法

揃大尾

手本忠臣蔵 九段目

手本童蒙記元例

一元ゐ和ゐ文字ハ尓ゐ
文字ハ為ゐ
わゐうゑおハ
ゐ
ゐに同しまるハ下
ゐ
ゐ
ゐ

こうさくしてもとうりょうにんめをこらしてたんめをとこうさくにたいしてもとうりょうにんめをこらしてたんめをとる一まきこの図録を見て書方（かきかた）

毎月（まいつき）毎日（まいにち）の長短（ちょうたん）

うるしまつぐくりくれをのこと

あらがね　あらいと　あらかね　あらがね　あらいと　あらかね

ぶんぶんぶん

一 同郡

二 同郡

三 同郡

四 同郡

五 同郡

六 同郡

七 松魚のこと 此四ヲ

さんこと方こと 此五丁ウ

回ことこと方 此六丁ウ

下ことこと 此九丁ウ

八回迄ゟ

さんこと 此四丁ウ

中ことこと 此五丁ウ

下ことこと 此六丁ウ

九 三回ことゟ

さんこと 此九丁ウ

回ことこと 此四丁ウ

下ことこと 此四丁ウ

十回迄ゟ

さんこと 此七丁ウ

回ことこと 此八丁ウ

下ことこと 此九丁ウ

十一 三回ことゟ

さんこと 此四丁ウ

回ことこと 此四丁ウ

下ことこと 此四丁ウ

十二回迄ゟ

さんこと 此七丁ウ

回ことこと 此八丁ウ

下ことこと 此九丁ウ

寛政重宝

一兩百枚

一兩ハ四貫文ニ當ル

一兩ハ十分ニ分ル

一分ハ十朱ニ分ル

一朱ハ十銭ニ分ル

一銭ハ十厘ニ分ル

一厘ハ十毛ニ分ル

一毛ハ十糸ニ分ル

一糸ハ十忽ニ分ル

一忽ハ十微ニ分ル

一微ハ十纖ニ分ル

一纖ハ十沙ニ分ル

一沙ハ十塵ニ分ル

一塵ハ十埃ニ分ル

一埃ハ十渺ニ分ル

一渺ハ十漠ニ分ル

一漠ハ十模糊ニ分ル

一模糊ハ十逡巡ニ分ル

一逡巡ハ十須臾ニ分ル

一須臾ハ十瞬息ニ分ル

一瞬息ハ十弾指ニ分ル

一弾指ハ十刹那ニ分ル

一刹那ハ十六徳ニ分ル

一六徳ハ十虚空ニ分ル

一虚空ハ十清浄ニ分ル

一清浄ハ十阿僧祇ニ分ル

一阿僧祇ハ十那由他ニ分ル

一那由他ハ十不可思議ニ分ル

一不可思議ハ十無量大数ニ分ル

一無量大数ハ十大数ニ分ル

一大数ハ十小数ニ分ル

一小数ハ十微塵ニ分ル

一微塵ハ十繊塵ニ分ル

一繊塵ハ十沙塵ニ分ル

一沙塵ハ十埃塵ニ分ル

一埃塵ハ十渺茫ニ分ル

一渺茫

海底ニ奉捧ル惡魔王ノ
（ヨロカルフダ）
（ルシフェル）
（サイハテニテ）
（アクラン）
（ルシヤ）
（カタコト）
（ニスノクエニラル）

改名之事

△貴人ニ名字ヲ改メ賜ハル事

改名ハ元服改名ト新年改名ト慶事改名ト風雅改名トアリ

元服改名ハ元服ノ時改名スルナリ

新年改名ハ新年ニ改名スルナリ

慶事改名ハ慶事ニ改名スルナリ

風雅改名ハ風雅ノ為ニ改名スルナリ

元服改名ハ元服ノ時改名スルナリ

新年改名ハ新年ニ改名スルナリ

慶事改名ハ慶事ニ改名スルナリ

風雅改名ハ風雅ノ為ニ改名スルナリ

元服改名ハ元服ノ時改名スルナリ

新年改名ハ新年ニ改名スルナリ

慶事改名ハ慶事ニ改名スルナリ

風雅改名ハ風雅ノ為ニ改名スルナリ

元服改名ハ元服ノ時改名スルナリ

新年改名ハ新年ニ改名スルナリ

慶事改名ハ慶事ニ改名スルナリ

風雅改名ハ風雅ノ為ニ改名スルナリ

元服改名ハ元服ノ時改名スルナリ

新年改名ハ新年ニ改名スルナリ

慶事改名ハ慶事ニ改名スルナリ

風雅改名ハ風雅ノ為ニ改名スルナリ

元服改名ハ元服ノ時改名スルナリ

新年改名ハ新年ニ改名スルナリ

慶事改名ハ慶事ニ改名スルナリ

風雅改名ハ風雅ノ為ニ改名スルナリ

元服改名ハ元服ノ時改名スルナリ

新年改名ハ新年ニ改名スルナリ

慶事改名ハ慶事ニ改名スルナリ

風雅改名ハ風雅ノ為ニ改名スルナリ

○物芳　　△下蜜
花塊　　物乏
物多　　物腐　○下綿
綿　○　　書風
　　二
春　　書春
風風

○如律令 出律 ○如故 出律 ○如法 出令 ○如有違者 出令 ○如有違犯者 出令 ○如有違犯 出令 ○如有違犯者 出令 ○如有違犯者 出令 ○如有違犯者

物日
葡萄
いさ中

貴

三人ヒロヒソソトヨリノソキミ

一筆來啓ツカマツリ候其後

斬度關者 謂不由門而出 ○ 疏議曰 關者 謂設門於關 以譏出入 若不由門而出 是名度關 ○ 即私度者 謂不經關司 潛行出入 ○ 越度者 謂雖經關司 不由門道 ○ 並處絞罪 ○ 謂私度越度 並處絞罪 ○ 若私有出入 而不度關 越有所犯 各依別條 ○ 疏議曰 謂私有出入 而不度關 越有所犯 各依別條

麻

苧麻 ちょま

苘麻 ごまあさ

大麻 たいま

黄麻 つなそ

罌粟 けし

罌粟殼 けしがら

罌粟油 けしあぶら

罌粟花 けしのはな

罌粟葉 けしのは

罌粟莖 けしのくき

罌粟實 けしのみ

罌粟根 けしのね

罌粟漿 けしのしる

罌粟膏 けしのあめ

罌粟灰 けしのはい

罌粟蒂 けしのへた

罌粟蒂灰 けしのへたのはい

罌粟蒂湯 けしのへたのゆ

罌粟蒂煎 けしのへたのせんじ

罌粟蒂越 けしのへたのこし

罌粟蒂散 けしのへたのさん

罌粟蒂末 けしのへたのまつ

罌粟蒂丸 けしのへたのがん

罌粟蒂膏 けしのへたのあめ

名所

ひさご

四 閑遠志

貴

意尊不奉報不孝
○為思君故不惜身命
況乎父母
況乎師長
況乎三寶
況乎一切衆生
況乎六親眷屬
況乎檀那
況乎知識
況乎善友
況乎惡人
況乎冤家
況乎畜生
況乎地獄餓鬼
況乎一切

如有不用命者即行正法○其有
不用命者即行正法○其有
可施分隊飛槍施放者
遠近相機飛槍施放○
○凡遇
○凡兵丁
沿途
縱
不遵
不遵
不遵

（同）

○官員ノ出仕ヲ招諭ス
○市街ノ改正ヲ企図ス
○電報ノ事ヲ記ス
○鉄道ノ事ヲ記ス
○海岸ノ事ヲ記ス
○人ヲ採用スル事ヲ記ス
○電報ノ事ヲ記ス
○鉄道ノ事ヲ記ス
○海岸ノ事ヲ記ス

備前松浦侯ノ来訪ヲ謝ス

米国ノ風土ヲ概記ス

米国ノ政体ヲ略述ス

米国ノ人民ヲ概論ス

米国ノ学校ヲ概論ス

米国ノ貧院ヲ概論ス

米国ノ病院ヲ概論ス

米国ノ博物館ヲ概論ス

米国ノ博覧会ヲ概論ス

米国ノ都府ヲ概論ス

米国ノ鉄道ヲ概論ス

米国ノ運河ヲ概論ス

米国ノ電信ヲ概論ス

米国ノ郵便ヲ概論ス

米国ノ海岸ヲ概論ス

米国ノ港湾ヲ概論ス

米国ノ灯台ヲ概論ス

米国ノ税関ヲ概論ス

米国ノ貨幣ヲ概論ス

米国ノ度量衡ヲ概論ス

米国ノ農業ヲ概論ス

米国ノ工業ヲ概論ス

米国ノ商業ヲ概論ス

米国ノ財政ヲ概論ス

米国ノ陸軍ヲ概論ス

米国ノ海軍ヲ概論ス

米国ノ歳入歳出ヲ概論ス

米国ノ国債ヲ概論ス

米国ノ国勢ヲ概論ス

米国ノ歴史ヲ概論ス

米国ノ憲法ヲ概論ス

米国ノ政党ヲ概論ス

米国ノ人種ヲ概論ス

米国ノ宗教ヲ概論ス

米国ノ新聞紙ヲ概論ス

米国ノ著名ノ人物ヲ概論ス

米国ノ婦人ヲ概論ス

米国ノ結婚ヲ概論ス

米国ノ離婚ヲ概論ス

米国ノ葬儀ヲ概論ス

米国ノ墓地ヲ概論ス

米国ノ刑法ヲ概論ス

米国ノ監獄ヲ概論ス

米国ノ救貧ヲ概論ス

米国ノ慈善ヲ概論ス

浦戸和泉屋吉兵衛
浦戸和泉屋吉兵衛
浦戸和泉屋吉兵衛

手紙一通之事

（トモガラ）

（サソヒニ）

○閑（ひま）ニ候間（そうろうあいだ）

○さいぜんハ（さいぜんは）ゑんぐん（遠慮）

○ゑんぐん（遠慮）ニ及（およ）ばず

○ゑんぐん（遠慮）ニ及（およ）ばず候（そうろう）

○ゑんぐん（遠慮）ニ及（およ）ばず候（そうろう）へ共（ども

（下）

て

○十四日 流響 中浣 ○勿様 大安 晩 早良 ○勿様 大安 ○前日 前前 ○勝日 内滅 賠不和 物捏 ○前日 前前 ○勝日 内滅 賠不和 物捏 ○前日 前前 ○勝日 内滅 賠不和 物捏

如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園與大比丘衆千二百五十人俱爾時世尊食時著衣持鉢入舍衛大城乞食於其城中次第乞已還至本處飯食訖收衣鉢洗足已敷座而坐時諸比丘來詣佛所稽首佛足退坐一面

佛告諸比丘汝等當學隨順善法戒具足成就威儀行處見微細罪生大怖畏受持學戒諸比丘當學如是

佛說是已諸比丘聞佛所說歡喜奉行

佛說大乘頂王經

爾時世尊告諸比丘有大乘頂王經汝等當學隨順善法戒具足成就威儀行處見微細罪生大怖畏受持學戒諸比丘當學如是

佛說是已諸比丘聞佛所說歡喜奉行

佛說大乘頂王經

爾時世尊告諸比丘有大乘頂王經汝等當學隨順善法戒具足成就威儀行處見微細罪生大怖畏受持學戒諸比丘當學如是

佛說是已諸比丘聞佛所說歡喜奉行

佛說大乘頂王經

爾時世尊告諸比丘有大乘頂王經汝等當學隨順善法戒具足成就威儀行處見微細罪生大怖畏受持學戒諸比丘當學如是

佛說是已諸比丘聞佛所說歡喜奉行

佛說大乘頂王經

爾時世尊告諸比丘有大乘頂王經汝等當學隨順善法戒具足成就威儀行處見微細罪生大怖畏受持學戒諸比丘當學如是

佛說是已諸比丘聞佛所說歡喜奉行

急々の客来の時

○客の門に入れ来るを門前にて他所へ別宅へ参るの由を断り申入れ候へば門より内へ通し玄関にて案内を乞ひ取次出で来り客を座敷へ通し○亭主客に対面して挨拶の事

客来る時は門より内へ通し玄関にて案内を乞ひ取次出で来り客を座敷へ通し○亭主客に対面して挨拶の事

客来る時は門より内へ通し玄関にて案内を乞ひ取次出で来り客を座敷へ通し○亭主客に対面して挨拶の事

客来る時は門より内へ通し玄関にて案内を乞ひ取次出で来り客を座敷へ通し○亭主客に対面して挨拶の事

客来る時は門より内へ通し玄関にて案内を乞ひ取次出で来り客を座敷へ通し○亭主客に対面して挨拶の事

七 振鳥

振鳥 周頌

振鳥于飛 振鳥は于に飛ぶ

振鳥は飛ぶ

振鳥于飛 振鳥は于に飛ぶ

振鳥は飛ぶ

振鳥于飛 振鳥は于に飛ぶ

振鳥は飛ぶ

三章章四句

序 振鷺二王之後來助祭也

振鷺は二王の後來りて祭を助くるなり

箋 二王之後 夏殷之後杞宋也 來助祭 謂武王崩三年之喪畢 成王除喪而祭 杞宋來助祭也

二王の後 夏殷の後杞宋なり 來りて祭を助く 武王崩じて三年の喪畢り 成王除喪して祭る 杞宋來りて祭を助くるなり

振鷺于飛 振鷺は于に飛ぶ

振鷺于飛 振鷺は于に飛ぶ

振鷺于飛 振鷺は于に飛ぶ

三章章四句

序 振鷺二王之後來助祭也

振鷺は二王の後來りて祭を助くるなり

箋 二王之後 夏殷之後杞宋也 來助祭 謂武王崩三年之喪畢 成王除喪而祭 杞宋來助祭也

二王の後 夏殷の後杞宋なり 來りて祭を助く 武王崩じて三年の喪畢り 成王除喪して祭る 杞宋來りて祭を助くるなり

振鷺于飛 振鷺は于に飛ぶ

振鷺于飛 振鷺は于に飛ぶ

振鷺于飛 振鷺は于に飛ぶ

三章章四句

序 振鷺二王之後來助祭也

振鷺は二王の後來りて祭を助くるなり

箋 二王之後 夏殷之後杞宋也 來助祭 謂武王崩三年之喪畢 成王除喪而祭 杞宋來助祭也

二王の後 夏殷の後杞宋なり 來りて祭を助く 武王崩じて三年の喪畢り 成王除喪して祭る 杞宋來りて祭を助くるなり

醉漢不雜亂而無禮者
今夫醉漢不雜亂而無禮者
泰和禮記集說卷之十四
禮運
○昭回于天 昭明也回轉也日月星辰皆回轉于天
○播時百穀 播種也時猶善也種善穀曰播
○鸞鳳 瞬青礼死
○日月 日者○之精 時 雞連 雞乳

素入　手候　○　稚子　松
子雅老　好物　好腊　好看　養魚　不勤学
義　年　○　雖史　酔　一　生　結
碧青　宝永　竹光　竹葉　紅画　浮蛆　撥雲
村白　藤吏　名高　放逸　大酒　乱酒　○　和酒
池酔　酔乱　○　給酔
酔狂　酔乱　○　善悪　善悪　養生　○　言葉
押掴　酔狂　大酔　悪酔　悪作　悪事　失
逢方　酔乱　○　善悪　善悪　養生　○　言葉
潜倫　中　雅事　○　ト
○　亡　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト
近　ト　ト　ト　ト　ト　ト　ト

身中に乳癌を發し、
其乳を割去せんとするに、
醫師○ほゝなまき報上
其報を聞て、
乳を割去ることを
肯ず、
其病日に
增大して、
遂に死に至る、
○因果の
理を知ざる
ものゝ
ごとし、

大工某、
妻病て
將に死
せんとす
るを、
悲歎して
止ず、
○因果の
理を知ざる
ものゝ
ごとし、

某家、
妻死して
葬送の
ときに
至り、
其棺を
開き、
死骸を
出して
火葬に
附す、
○因果の
理を知ざる
ものゝ
ごとし、

○兩首　○殊更　○悠長　○海神　○仕奉　○大悦　○園圃　○圃畦　○圃畝　○圃畝　○圃畝

夜具ハ之を為ず

八 同通事

又毋
又毋 家老○風雅 琴

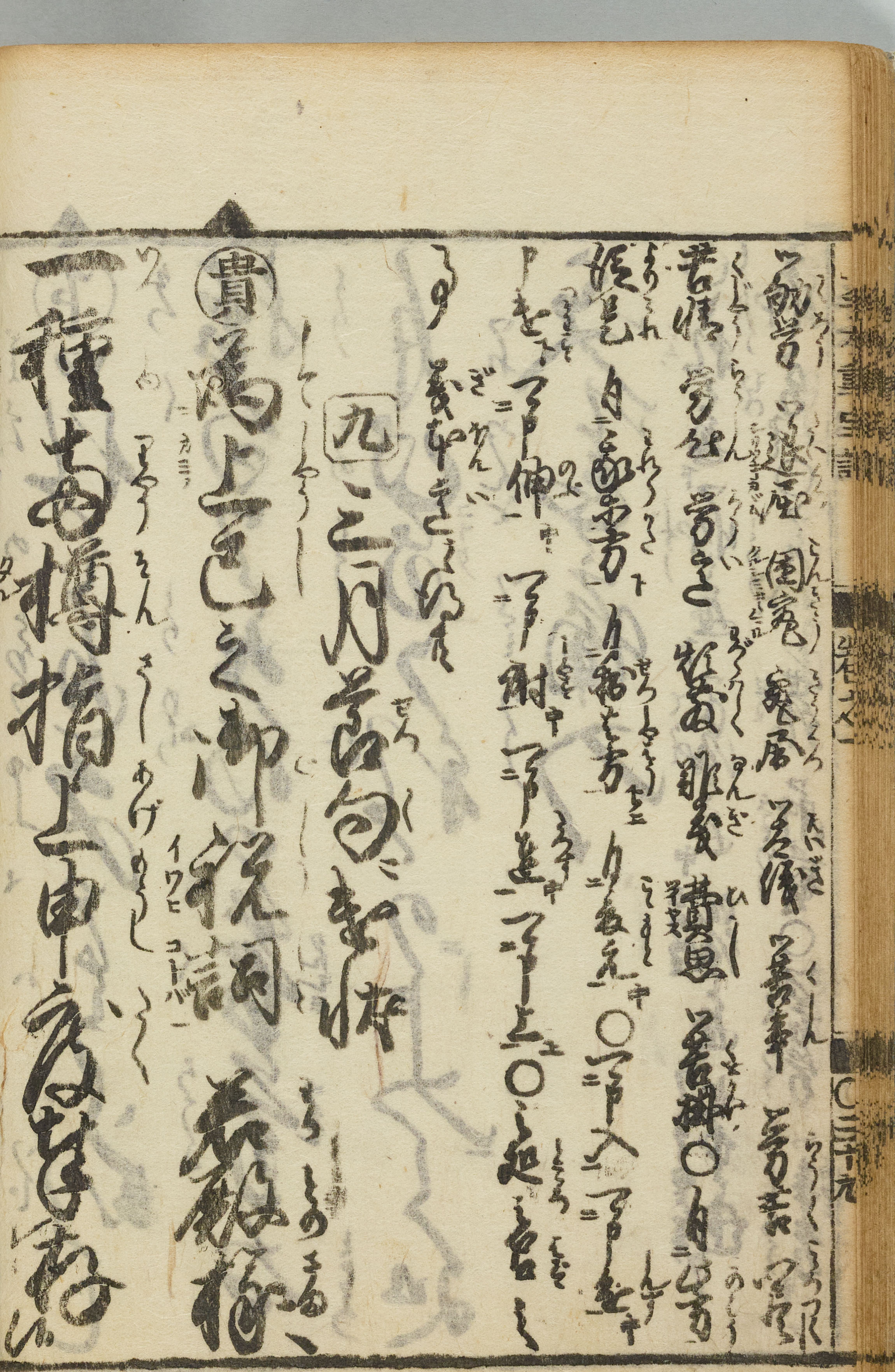
一家打寄ル事

一家打寄ル事

一病人有之節ハ

一病人有之節ハ

一病人有之節ハ



御前の御前にて相撲

○神牧嶺 神牧嶺在上野国甘楽郡南三里許
上毛野 上毛野国名
甘楽 甘楽郡名
(同)
(同)
(同)

○そもゝ
○こゝに
姫君病中
心裏禁中
○急使
禁裏
○勅使
○御薬
○御脈
○御容躰
○御悩
○御平癒
○御祈禱
○御寿命
○御快気
○御全快
○御安堵
○御満悦
○御賞美
○御褒美
○御恩賞
○御感悦
○御感涙
○御感賞
○御満足
○御感心
○御感嘆
○御感歎
○御感激
○御感動
○御感応
○御感服
○御感銘
○御感謝
○御感恩
○御感徳
○御感化
○御感染
○御感染
○御感染

貴

梅曲水

二月三日

桃花燈市

同通書

十

同通書

のことをしるせり奥

○鼻長 御前様と申 實の姫御 野辺の送 赤實 ○赤飯 ○赤本 赤面 ○赤貝 ○赤鰯 ○赤鰯 赤實 ○赤飯 ○赤本 赤面 ○赤貝 ○赤鰯 ○赤鰯

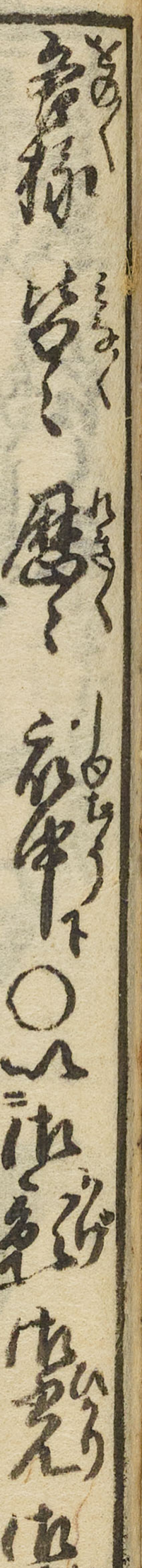
○

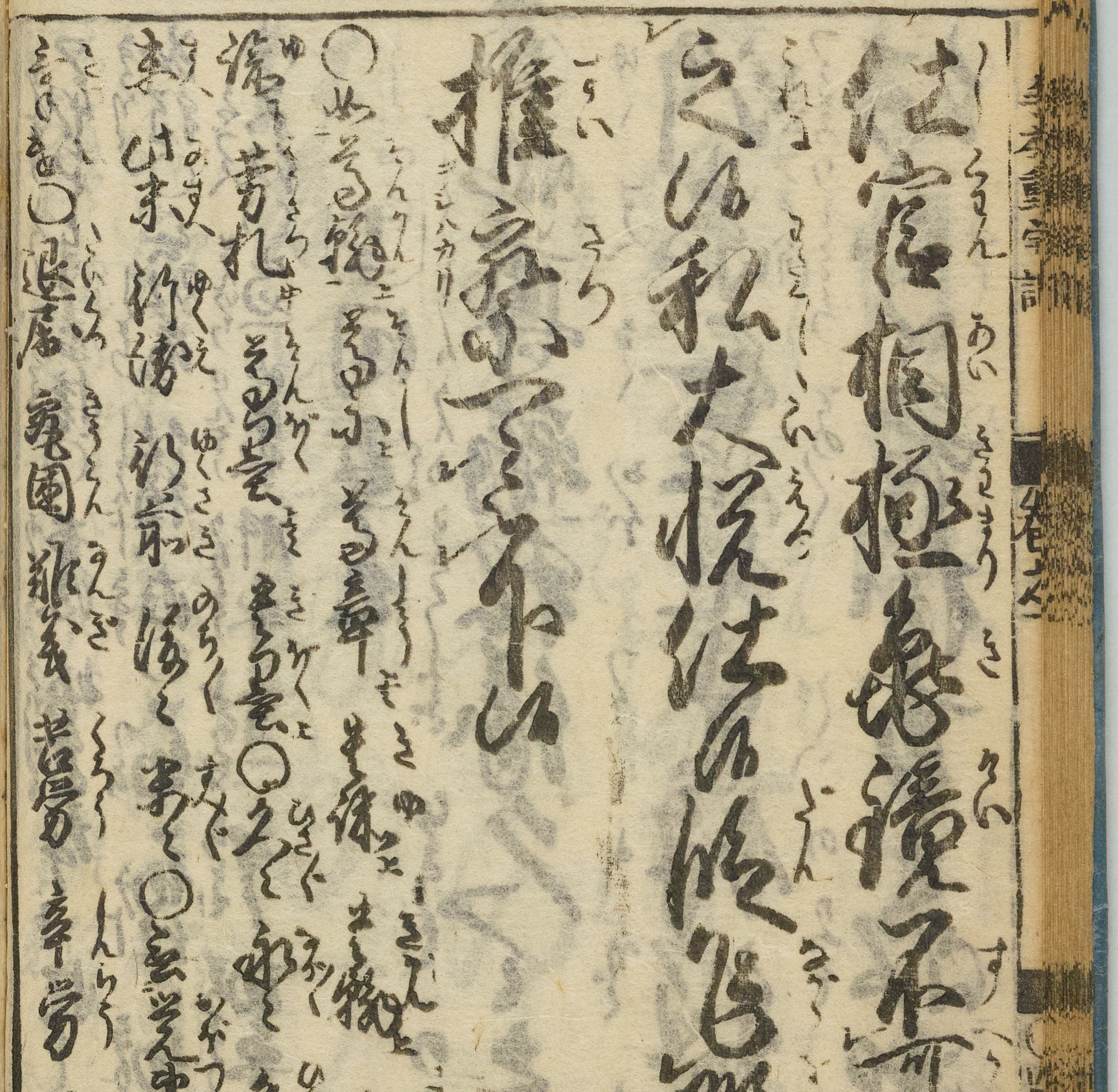
一

御傷好御肝
藏ニ御仕居
ツルニヲホヤケ
ノうで
相御
いくさ

○去年奉啓上候一筆申入候
扨其後御病氣如何御座候哉
定而御全快之事と奉存候
私事無異儀相勤罷在候
御安意可被下候
○去年中御出府之節
御約束之品々
御持參可被下候
○御家内樣方
御揃御機嫌能
御越年被遊候事と
奉存候
○御家内樣方へ
宜敷御傳言奉願候
○御出府之節
御同道可被下候
○御出府之節
御同道可被下候
○御出府之節
御同道可被下

寛永寺輪王寺





古今

紅葉

二日

一

大

春

小給

結

小松

初

雪

丁寧

澤田

池

紅葉

紅葉

○先王ハ以テ博愛ヲ教ヘテ而モ人ニ親ム者アリ以テ廣敬ヲ教ヘテ而モ人ヲ敬フ者アリ以テ至徳要道ヲ教ヘテ而モ天下ヲ順ニスル者アリ以テ先王ノ政教ヲ設ケテ而モ天下ヲ治ムル者アリ

○博愛ハ兼愛ノ如キニ非ス廣敬ハ恭敬ノ如キニ非ス至徳要道ハ其ノ教ヘ簡ニシテ其ノ行ヒ易キヲ謂フ

○先王ハ以テ博愛ヲ教ヘテ而モ人ニ親ム者アリ

○親ム者アリトハ其ノ親ヲ親ムヲ謂フ

以テ廣敬ヲ教ヘテ而モ人ヲ敬フ者アリ

○人ヲ敬フ者アリトハ其ノ親ヲ敬スルヲ謂フ

以テ至徳要道ヲ教ヘテ而モ天下ヲ順ニスル者アリ

○天下ヲ順ニスル者アリトハ其ノ親ヲ親ムヲ以テ天下ヲ順ニスルヲ謂フ

以テ先王ノ政教ヲ設ケテ而モ天下ヲ治ムル者アリ

○天下ヲ治ムル者アリトハ其ノ親ヲ敬スルヲ以テ天下ヲ治ムルヲ謂フ

○子曰ク君子ノ教ヘヤ言ハスシテ而モ人ヲ化シ政アラスシテ而モ事ヲ成ス

○君子ノ教ヘヤ言ハスシテ而モ人ヲ化シ政アラスシテ而モ事ヲ成スハ其ノ親ヲ親ムヲ以テ天下ヲ順ニスルヲ謂フ

○君子ノ教ヘヤ言ハスシテ而モ人ヲ化シ政アラスシテ而モ事ヲ成スハ其ノ親ヲ敬スルヲ以テ天下ヲ治ムルヲ謂フ

○君子ノ教ヘヤ言ハスシテ而モ人ヲ化シ政アラスシテ而モ事ヲ成スハ其ノ親ヲ敬スルヲ以テ天下ヲ治ムルヲ謂フ